

ある母親の卒業式の保護者代表挨拶原稿を目にして

あるお母さんから、次のようなメール（抜粋）をいただいた。

【 ○日の卒業式には、保護者代表の挨拶をしました。（添付しますね(^o^)/）
阿部さんのお陰で子ども達との接し方が変わりました。ありがとうございます。
阿部さんとの出会いは、私には本当に大きいものでした。 】

このお母さんとの出会いは、以前に当 HP「お母さんたちの涙に、あなたは何を思いますか？（「雑学BN」の講義等関係（Ⅲ）、2006.07.16.：参照）」で触れたことがある。

その後、メールで交流をさせていただき、ちょっと「雑学BN」で振り返ってみると、メール交流を題材とした十数記事もHPに掲載しており、自分自身も、随分学ばせていただいた。

今回の添付原稿は、障害のあるお子さんの姉の中学校卒業式に際してのものであったが、メール交流の題材にも触れた次のような一文（抜粋）もあった。

【 なぜ、勉強するんだろう、なぜ、学校はあるのかな、命ってなんだろう。生きるってなんだろう。子供と沢山の事を話し合いました。

子供の命を授かり、生まれてきてくれて私達は親になる資格を得たと思います。

子ども達を慈しみ育て、ともに歩み、楽しみ喜び、そして、悩み苦しみ、その体験や経験をとおして、親として成長出来ました。

この三年間、教科書は無いけれども、親として一生懸命に勉強してきました。

しかし、通信簿も成績表もありません。今日この感動が私達の通信簿であり成績表です。

子ども達が親としての私達を磨き、導いてくれた事に本当に感謝し、心からありがとうの言葉をおくります。 】

こうした一文に接すると、お母さん自身が生きる喜びを、また、式で挨拶するまでに勇気を自らの力で育んでいることを知ると、少しでもお手伝い出来たかなとこちらまでこみ上げて来るものがある(;_;))

「阿部さんは、人は変わり得る存在と思い過ぎてる」と云われることがあるが、「人を信じて係わり合わずして、自らの生きる喜びってあるの？」と問い返したくなるだけに、こうしたメールに接すると、我が想いに自信と勇気をいただけて、(^_^)v ~